

聖書：ヨハネ 14：12～17

説教題：もうひとりの助け主

日時：2014年6月8日

イエス様は復活後、40日間、弟子たちに現れて、神の国のことを語られました。そして間もなくあなたがたは約束の聖霊を受けるから、エルサレムを離れないで待っていてなさいと言われてきました。そうして待つこと10日、イエス様の復活から数えて50日目のこの日に、使徒の働き2章に記されているペンテコステの出来事が成就しました。この日に、ペテロがヨエル書2章を引用して説教したように「終わりの日」が始まりました。地上での働きをすべて成し遂げた主が天上に上ってこの日から全世界・全宇宙を、ご自身の霊をもって祝福し始められたのです。この日のことについてイエス様は前もって語っておられました。今日開いたのは、十字架前夜の最後の晩餐の席上におけるイエス様のお言葉です。ここから聖霊について3つのことを心に留めたいと思います。

一つ目は聖霊がここで「もうひとりの助け主」と言われていることについてです。イエス様は彼らから去って行かれることについてここで話しておられます。弟子たちにとってこれは危機的な状況でした。果たしてこれからイエス様なしでどうやって歩んで行けるか。しかしイエス様は大丈夫だと言われます。なぜなら、「もうひとりの助け主があなたがたに与えられるから」と。この「助け主」と訳されている言葉は、ギリシャ語のパラクレートスで、パラは「そばに」、クレートスは「呼ばれた者」という意味です。すなわち傍らに呼ばれ、援助してくださる存在を指します。「助け主」の他に、「助言者」「カウンセラー」「励ます者」「慰め主」「支持者」「弁護者」などとも訳されます。つまり弟子たちはさみしく放っておかれるのではない。彼らには常に傍らで彼らを助け、励まし、支えてくださる方が与えられると言われたのです。

その助け主について「もうひとりの」と言われています。これは何を意味しているでしょう。それはまずイエス様ご自身が助け主であるということです。確かにイエス様はこれまで彼らの助け主でした。イエス様は彼らのそばで彼らを守ってくださいました。嵐の中でも助けてくださいました。食べ物がない時も養ってくださいました。弟子たちが気づかないところでも彼らのために祈り、とりなしてくださいました。教えと警告をもって強めてくださいました。様々な反対者たちの非難に対して弁護してくださいました。そういうイエス様とは別に、もうひとりの助け主が彼らには与えられる。そして「もうひとりの」という言葉には、その方はイエス様に少しも劣らないというニュアンスも込められています。イエス様と同じ力を持つもうひとりの助け主であるということです。しばしば、もしイエス様が地上におられた時代に私たちも生きていたら、どんなに素晴らしかったことか、と言われることがありますが、決してそうではないのです。私たちにはイエス様と同じように私たちを支え、励まし、力づけてくださる助け主が与えられているのです。

では、この助け主が与えてくださる助けはどのような助けなのでしょう。この方は私たちにとって都合の良い便利屋さん、何でも屋さんなのではありません。12節でイエス様は「あなたがたは、わたしよりもさらに大きなわざを行なう」と言われました。果たして誰がイエス様より大きなわざをできるか、と思います。しかしイエス様は確かにそのことを言うておられます。イエス様が行なわれたことは言うまでもなく、他のどんなことよりも大きく重要なことでしたが、イエス様の地上での働きはある意味で限定されていました。イエス様は基本的にイスラエルの中だけの働きに集中されました。また十字架のみわざを成し遂げるといふ働きに没頭されました。しかしこれからは、このイエス様のみわざに基づいて、神の国の働きは飛躍的に拡大して行くこととなります。そのためにこれからは弟子たちが用いられるのです。その働きを彼らが担う中で助けてくださるのが、この助け主なる聖霊なのです。

この大きなわざと切り離せないのが、13～14節の祈りです。13節でイエス様は「あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、それをしましょう。」と言っておられますが、私たちはこれを私たちが祈ることは何でもかなえられると理解してはなりません。この祈りは12節の「さらに大きなわざ」を行なうにあたっての祈りです。すなわち全世界に福音をもたらすわざは、天に上られたイエス様により頼む祈りを通して前進させられて行くのです。この祈りは私たちの好き勝手な祈りでないことは15節からも分かります。15節に、イエス様を信じる弟子はイエス様の戒めを守る者たちだと言われています。そんな者たちが自分勝手な祈りをするはずがありません。弟子の祈りはやはり主の御心にかなうものであり、主の御言葉に沿った祈りとなるはずです。そして私たちはその戒めを仕方なく文句を言いながら守るのではなく、愛という動機によって守ると言われています。イエス様を愛してイエス様の戒めを守るのです。この道を進むための助け主なのです。私たちが主への愛によって主の律法を守り、さらに大きなわざを行なうて行くために、「もうひとりの助け主」なる聖霊が傍らに来て、私たちを助けてくださるのです。

2つ目に見たいのは、17節で「真理の御霊」についてです。26節：「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」私たちは罪を犯した結果、真の知識を失ってしまいました。神はどなたで、どんな方であるか分からなくなりました。また自分がどんな者かも分からなくなりました。またこの世界もどう見たら良いか分からなくなった。自分はどこから来て、どこに向かって進んでいるのか。世界はどこから来て、どこに向かって進んでいるのか。自分が今ここで生きている意味は何なのか、自分は今、何をしているのか、分からない。しかし真理の御霊は私たちの心の目を開いて、真理を悟らせてくださいます。この聖霊について17節に「世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。」とあります。つまり御霊に属する

ことは人間な能力や人間の知恵では把握できないということです。I コリント 2 章 14 節：「生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわきまえるものだからです。」ですから私たちは聖書を読む時も、何かの学びをする時も、伝道のわざに当たる時も、まず聖霊に導きを祈るのです。聖霊が主権を持って働いてくださってこそ、閉じている私たちの霊の眼は開かれて、神の真理を悟るに至るからです。

では真理の御霊が示す「真理」とは、より具体的にはどんなことでしょうか。この少し前に「真理」という言葉が出て来るところがあります。それは 14 章 6 節です。そこでイエス様は「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです」と言われました。すなわち真理とは究極的にはイエス・キリストのことであると言えます。真理の御霊は、このイエス様を指し示すお方です。16 章 14 節：「御霊はわたしの栄光を現わします」ですから御霊に導かれている人とは、何よりもイエス・キリストを良く知っている人です。そしてそれは学問的に知っているということではなく、イエス様との生きた交わりの中でイエス様の素晴らしさを味わい、イエス様を愛し、イエス様を賛美しているということです。そういう人こそ、15 節にあったように、イエス様を愛してイエス様の戒めに従う人になるでしょう。その人は律法を全うし、イエス様に似る者となって行く。II コリント 3 章 18 節：「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」

最後 3 つ目にここから学びたい聖霊に関するメッセージは、「聖霊の内住」ということです。16 節でイエス様は「その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。」と言われました。イエス様は全世界を治めるために天の高きに昇って行かなければなりません、今度来られるもうひとりの助け主は、いつまでも共にいてくださると言われています。そして 17 節では「その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちに住まれる」と言われています。原文から分かることは、最初の「ともに住み」は現在形で、後の「うちに住まれる」は未来形で書かれていることです。つまりイエス様がこの言葉を語られた時点で、聖霊はあなたがたとともに住んでいると言われています。この意味は聖霊はイエス様の上に豊かに注がれているので、そのイエス様とともにいる限り、聖霊は弟子たちとともに住んでいると言われます。しかしやがてもっと素晴らしい時が来ることをイエス様は見つめておられます。それは聖霊が「あなたがたのうちに住まれるようになる」という日です。やがてキリストが天から聖霊を遣わされる時に、御霊が彼らのうちに住まれるという、より素晴らしい祝福が実現する。I コリント 6 章 19 節：「あなたがたのからだは、あなたがたの内に住まれる、神から受けた聖霊の宮であり…」聖霊は確かに私たちのうちに住まわれます。そして一旦入ると、出たり入ったりはしない。慰め主、助け主としていつまでもともにいて、私たちの救いの働きを最後まで成し遂げてくださるのです。ですから聖霊は他の箇所でも「御国を受け継ぐ保証」とか、「証印」と

言われています。私たちはここに大いなる慰めと確信を頂くのです。こんな弱い私たちがどうして救いの道を最後まで歩み通すという確信を持てるか。それは主が天から遣わしてくださった助け主が私たちのうちに住み、キリストの恵みを適用し、いつまでもともにいてくださるからです。このことに大いなる慰めと励ましを頂いてこそ、私たちは心を奮い立たせて、イエス様に従って行く信仰の歩みへと進むことができるのです。

イエス様が約束してくださった聖霊の注ぎはペンテコステの日に成就しました。そして私たちは今や力強い助け主を頂いています。その方によって、私たちはまことの真理であられるイエス・キリストへと導かれています。また聖霊は私たちの内に住んで、最後の完成に至るまで私たちを導いてくださいます。私たちはこの御霊のお働きを今朝改めて感謝し、この助け主が助けてくださる道をしっかり踏み進んで行きたい。それはイエス様への愛によって御言葉を守り行なう生活です。そうして私たちは主に似る者となる歩みを導かれて行きます。また主と一つ心になっている者として、祈りをもって、主の働きを継続し、さらに大きなみわざを行なう生活です。主はこのためにもうひとりの助け主を送ってくださいました。私たちはこの助け主によって、主が備えてくださった祝福の道を歩んで行くことができるのです。